

かやぶき民家見学について（引率の先生方へ）

必ず

見学前に、次のことを子どもたちへお伝えください。

- ①民家内の昔の道具は、今は作られていない「貴重なもの」がたくさんあります。許可がないものは、触らないでください。
（わらでできた道具や、木でできた道具があり、中には壊れやすいものもあります。）
- ②民家の中では、走らないでください。
（滑りやすく、他の児童にぶつかったり、ケガをしたりしてしまう恐れもあります。）
- ③囲炉裏の周りに、近づかないでください。
（囲炉裏に火がついていることがあります。やけどをしないように注意してください。）
- ④階段は、急なつくりになっています。手すりを持って上り下りしてください。
【現在2階は閉鎖中です】
- ⑤二階は、静かに歩いてください。走ったりとびはねたりしないでください。
（2階の床は木の板1枚なので、板が割れる危険があります。）【現在2階は閉鎖中です】

かやぶき民家について

（必要に応じて、子どもたちにお伝えください）

①建築について

・建てられた時期

かやぶき民家は、明治3年～7年（1870年～1874年）、今から150年くらい前に建てられました。

・建て方

山から木を切り出し、柱を組み合わせ、わらを練り込んだ粘土で壁を塗り、ススキなどの萱を屋根にのせて建てました。たくさんの大工さんが頑張って建てましたが、できあがるまでに5年もかかったそうです。

②赤城型民家の特徴について

・切り落とし屋根

かやぶきの屋根を見ると、正面が切り落とされて、二階の窓が見えるようになっています。このような形を赤城型民家といいます。（赤城山の南面に昔からある養蚕をしていた家を赤城型民家といいます。）かやぶき民家の屋根は、カイコを飼う時に必要な「太陽の光」と「風」を二階に入れるためこのような形になりました。

・うまや（馬屋）

かやぶき民家の中には馬がいます。馬は、畑や田んぼを耕したり、重い荷物を運んだりするときに役に立ちました。昔の人は、馬と一緒に住み、大切にしていたのですね。